

勝浦みかん産地の再編整備

目的

- ・ 勝浦町は、11月～12月に収穫した果実を貯蔵庫で熟成、越冬させ、翌年2月から出荷する貯蔵みかんの産地。
- ・ **共同選果施設を再編整備し、新たに平坦で作業性の高い水田への新植に取り組むことで、産地の再編強化を図る。**

課題

【人材面】

- ・ 生産者の高齢化や担い手不足が進行しており、出荷量は減少傾向。
＜JA東とくしま 温州みかん（共選）出荷量＞ R5 867 t（R1比 94%）
- ・ 新規栽培者の参入が少なく、傾斜地園地を中心に遊休化が加速するおそれ。

【施設面】

- ・ 選果施設が老朽化しており、消費者が求める糖度・酸度選別に未対応。

【技術面】

- ・ 新植、改植の遅れから老木化し、年ごとの生産量が不安定。

目指すべき姿

○新規栽培者の安定的な確保により次代へ繋がるみかん産地として維持・発展

- ・ 時代にあった高品質なみかんを安定供給することで、貯蔵みかんでのトップブランドを維持している。
- ・ 平坦地での団地化によるスマート技術の普及や選果施設の有効活用により、生産性や収益性の向上が図られる。

＜成果目標＞

- 共選・共販体制による取扱量 867 t（R5） → 1,794 t（R10）
- 平坦で作業性の高い水田等への新植 — （R5） → 5 ha（R10）



課題解決に向けて

【新規栽培者の育成・確保】

- ・ **かんきつアカデミーと連携した新規栽培者の確保**
- ・ **「産地」がサポートする新規栽培者の技術習得支援**
- ・ 「貯蔵みかん」でもうかる経営モデルの作成

【集出荷施設等の再編整備】

- ・ **選果場再編による新たな共選・共販体制の構築**
- ・ **光センサー選果、共同低温貯蔵による高品質なみかんの安定供給**
- ・ **新規栽培者を受け入れる園地整備と団地化の促進**

【生産性向上】

- ・ 交互結実栽培に適した栽培管理技術の向上
- ・ みどりの食料システム戦略を推進する化学肥料・化学農薬低減技術の普及
- ・ 無人防除・施肥機、ロボット草刈機などスマート技術の導入

【プロジェクト実施体制】

